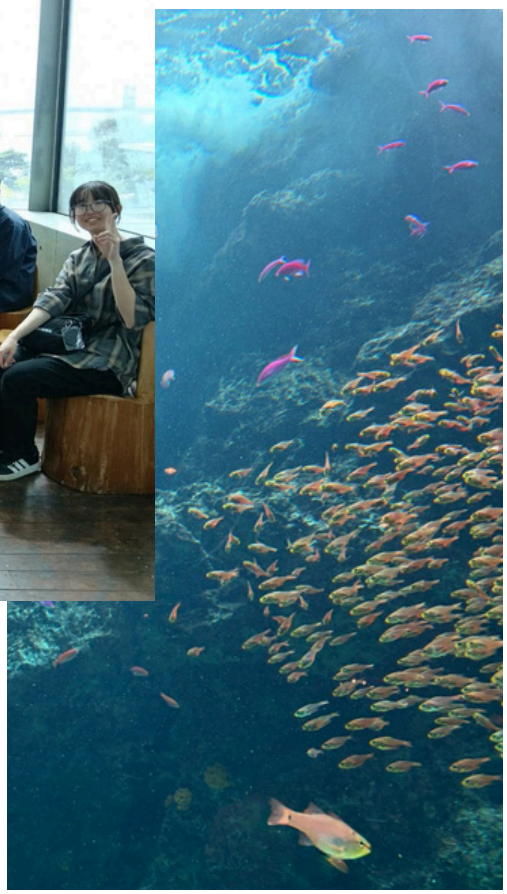
#02

特定非営利活動法人E-nnovation広報紙

いのべいんふぉ

２０２６年（令和８年）９月発行





2026/9/15
Next E-nnovation小旅行 in福島・日立

9月15日、Next E-nnovation(茨城大学教育系サークル)で小旅行に行きました。小旅行は今まで挑戦したことのない企画でしたが、みんなで協力して当日につなげることができました。

当日はアクアマリンふくしまや日立シビックセンターなどを巡り、お昼にはバーベキューを楽しみました。1日の最後には、多賀高校の見学もさせていただきました。アクアマリンふくしまでは、実際に潮目の海を見ながら福島の海について知ることができました。また、日立シビックセンターでは科学に触れ、体験し、驚き楽しみながら学びを得ました。

現地ではもちろん、道中でも笑顔のあふれる素敵で特別な1日となりました。

来年は、今回の反省も踏まえつつ、新しいメンバーも加えてさらに規模の大きい旅行に挑戦したいと思います。



E-nnovationを日頃より
支えててくださっている方々のご紹介



小沼　公道 様　　ー笠間市教育委員会　教育長ー

・座右の銘　「水急不流月」
・当団体とご縁をいただいたきっかけ
→人は磁石です。同じ想いの人が惹かれ合うのは必然のことです。
あたご百てんぐが全国モデルになるよう、よろしくお願いします。
・当団体の今後の活動に期待することやご意見・ご要望
→教育は学校だけで完結できません。
学社連携、これからも社会全体で子供たちを育成する仕組みに
チャレンジしていきましょう！

長谷川　馨 様　　ー大洗町教育委員会　教育長ー

・座右の銘　「絆づくりは夢創り」
・当団体とご縁をいただいたきっかけ
→茨城大学の石井特任教授のご紹介で、佐々木さんと出会い、
佐々木さん達の教育に対する思いに感銘し、これからの
教員養成のために大学生等の活躍の場を提供し、これからの
こども達のために頑張ってくれる団体だと思います。
・当団体の今後の活動に期待することやご意見・ご要望
→学校教育だけで教育が成り立たない時代だと思います。
学校・家庭・地域社会が連携できる場の構築を若い力を借り
ながら、全ての人たちが本気になってこども達の明るい未来
を構築できる団体だと思うので、こんな活躍を期待しております。





長山　祐司 様　　ー茨城県立多賀高等学校　校長ー

・座右の銘「今を生きる」
・当団体とご縁をいただいたきっかけ
→代表の佐々木さんと昔からの知り合いだった。
・当団体の今後の活動に期待することやご意見・ご要望
→大学生には、学校の探究活動や進路指導におけるメンターの役割を、
大学生、高校生、共に、学校が学びを地域で展開するにあたって、
地域とのパイプとしての活動に期待します。

稲葉　節生 様　　－水城高等学校　副校長－



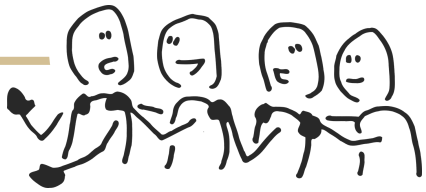
・座右の銘　「至誠一貫」
・当団体とご縁をいただいたきっかけ
→ふとしたことから、佐々木康喬さんと出会い、教育を取り巻く種々の課題について、お互いの考えを交換するようになったことがきっかけですかね。彼の考え方、持っている情報がいつも新鮮で興味深く、ついつい引き込まれる。
・当団体の今後の活動に期待することやご意見・ご要望
→刻々と変化する社会情勢、中でも、教育をとりまく環境の変化に関する情報をお聞かせ願いたい。さらに貴法人が取り組もうとされている課題について、その発想のきっかけ何であったのか、興味深いです。

秋本　光徳 様　　－ひたちなか市教育委員会　教育長－



・座右の銘　「アドリブ」
・当団体とご縁をいただいたきっかけ
→大学生とともに学校のサポートを通じて教育を変えたい…
５年程前に仕事を通じて佐々木さんの熱い想いをうかがいました。学びの支援を中心にこどもたちの成長を手助けしてくれていることに敬意を表します。
・当団体の今後の活動に期待することやご意見・ご要望
→困難を抱えているこどもであっても秘めている可能性を発揮するチャンスを手にできるように、手を差し伸べてくれる存在であり続けてください！

ご協力ありがとうございました
今後ともよろしくお願いいたします！



理事長コラム

子どもたちは、なぜ学ばなくなるのか。②

私は、「勉強が嫌いな子ども」はほとんど存在しないと思っている。
なぜなら、人は本来、知りたい、できるようになりたい、成長したいという欲求を持っているからだ。幼い子どもたちを見れば、それは明らかである。何度転んでも立ち上がり、できるまで挑戦し続ける。誰かに言われたからではなく、自ら学び、自ら成長しようとする。
では、なぜ多くの子どもたちが学ぶことから離れていくのだろうか。
私は、その原因が子ども自身にあるとは思わない。
学ばなくなったのではない。学べなくなってしまったのである。
学校や家庭では、知らず知らずのうちに結果が重視される。「何点だったのか」「何番だったのか」「できたのか、できなかったのか」。もちろん評価は必要である。しかし、それだけが繰り返されると、子どもたちは次第に「間違えないこと」を目標にし始める。
すると挑戦が減る。
分からないことを聞かなくなる。
失敗を恐れるようになる。
そしていつしか、「自分には向いていない」「どうせやっても無理だ」という言葉が心の中に積み重なっていく。
しかし、本当の学びは失敗の中にある。
自転車に乗れるようになるときも、何度も転ぶ。スポーツが上達するときも、思い通りにいかない時間を積み重ねる。勉強も同じである。分からないから考える。できないから工夫する。その過程こそが学びの本質だ。
だからこそ私たち大人に必要なのは、結果だけを見ることではない。
挑戦したことを認めること。
昨日より一歩前に進んだことを見つけること。
失敗しても「もう一度やってみよう」と思える環境をつくること。
子どもたちは、大人が思う以上に周囲の言葉や空気に敏感である。だからこそ教育に必要なのは、評価よりも信頼であり、競争よりも安心である。
子どもたちは学ぶことを嫌いになったのではない。
学びたいという気持ちを発揮できる場所を失ってしまっただけなのかもしれない。
もしそうだとしたら、私たち大人がやるべきことは一つである。
子どもを変えようとする前に、子どもが挑戦したくなる環境をつくること。
その積み重ねが、子どもたちの「学びたい」を再び呼び覚ますのだと、私は考えている。

佐々木　康喬
大学受験予備校にて校舎長、東京本部学務室長を歴任。全国の大学受験指導に携わり、高卒本科クラス担任時には第一志望校合格率9割を達成。進路指導のプロとして多くの受験生を志望校合格へ導く。
現在は茨城県ひたちなか市を拠点に、子どもたちの「学力」と「非認知能力」を育てる教育プログラムを開発。小中高大と連携した探究学習支援や地域共創型キャリア教育に加え、不登校支援にも取り組み、学校と地域をつなぐ教育活動を展開している。

編集後記

E-nnvation広報紙第2弾はいかがでしたでしょうか。日頃から
支えていただいている方々をご紹介することができてよかったです。
ご協力いただいた皆様、ありがとうございました。これからもよろしくお願いいたします。

中島怜和

特定非営利活動法人E-nnovation
〒312-0005
茨城県ひたちなか市光町38
株式会社ひたちなかテクノセンター内
070-9235-5744
受付時間　9:00~17:00
E-nnovation HP
@ENNOVATION2020
@NEXT_E_NNOVATION
@E_NNOVATION_ACADEMY